

IGF 2023に向けた国内 IGF 活動活発化チーム第28回会合 発言録

2022年12月5日

【加藤】 スタートさせていただきます。まだ、多分、これから御参加になる方も多いと思いますが、まず、アジェンダを山崎さん、ちょっと見せていただけますか。今日の確認として、まず、2023年の現状を御報告いただいて、今年の、2022年、先週あったエチオピア（で開催された IGF2022）に関して、今のところ高松さんだけかもしれませんけれども、御参加の方から一言ずつでも何か御報告とか、リモートで参加された方もいらっしゃると思いますので、そういう方もいろいろとコメントをいただければと思います。

それから、その時点で御参加いただきたいと思うんですけれども、IGF タスクフォースがスタートしましたので、タスクフォースの条件について、いろいろ御報告をいただきながら、少し議論をさせていただければと思います。

その辺をベースに、今日はスタートいたします。

それで最初に、この順番で言いますと4番目、その前に3番目の宿題の進捗確認というのは、今回、山崎さん、特に大きな宿題事項というのはいないですね。ほとんどが事務的な内容かと思いますが。

【山崎】 そうですね。両チームで毎回の議事録ですとか、資料ですとか。

【加藤】 そうですね。それだけです。

【山崎】 1つ残っている大きいものは、10月に開催しました日本インターネットガバナンスフォーラムの録画です。これが Day 0しかできていなくて、Day 1と Day 2がまだと。それが唯一、ちょっと遅れている大きいものかと思えます。

【加藤】 分かりました。ありがとうございます。もうイベントに関しては、まとめの報告とか、そういうのも出ていますので、アーカイブを見ていただく準備も、出来次第よろしくお願ひします。

ということで、今のアジェンダに戻ってなんですけど、総務省からどなたか、2023年に関して、進捗状況の御報告をいただくことはできますでしょうか。

【森下】 お疲れさまです。総務省データ通信課の森下と申します。

【加藤】 森下さん、ありがとうございます。

【森下】 お世話になっております。

すみません、国際戦略局のほうがちょっと今、参加できていない様子でございまして、こちらから特に何か御報告することは今のところございません。後に送らせていただきますと大変幸いです。

【加藤】 分かりました。では、国際課のほうから御参加いただくのを待つということで、もう来年の時期と場所については正式発表をしていただいたということですね。

【森下】 はい。ありがとうございます。今、報道資料のほうを映していただいておりますとおり、2023年の開催日時の方は、総務省のホームページに掲示させていただいております。

【加藤】 ありがとうございます。これは8日から12日ということで5日間で、通常どおり、1日目は

Day 0で、あと4日間というイメージでよろしいのでしょうか。

【森下】　そうですね。恐らくはそうなるものかなと考えますが、その辺り飯田のほうから、また御説明があるものと思いますので、そちらは飯田のほうにお願いしたいと考えております。よろしくお願ひいたします。

【加藤】　分かりました。では、飯田様、また後で参加されたら詳しく伺って、もし飯田様がいらっしゃれば、今回のエチオピアでのブースの状況とか、そういうこともいろいろ伺えると思いますので、お待ちしたいと思います。

それでは、もう一度アジェンダに戻っていただいて、次、参加者からの報告ということなのですが、これも、今のところ高松さんがあれですけども、高松さんに、まず振ってよろしいですか。

【高松】　大変申し訳ないですけども、これ、私から報告するのちょっと変な気がするんです。

【加藤】　そうですね。報告というより、報告という、ちょっとこの見出しがあれで、感想で結構です。今年はこんな感じだったとか。毎年、高松さんは御参加なので、今年はこんな特徴があったとか、参加者のイメージとか、その辺だけでも何かお気づきのことがありますか。

【高松】　参加者の傾向というところなんですけれども、やっぱり開催国がエチオピア、アフリカのほうだったということもあって、アフリカからの参加者というのが非常に多かったというのが特徴的なところかと思ひます。会場を例えば見渡したときというのが、そちら側の人たちが多いなというのが見て分かるような雰囲気だったので、これが例えば IGF 2023になったときに、日本が同じような雰囲気になるのか、アジア太平洋地域からの参加者でそれだけの割合になったよねというふうに見えるだろうかというところは、ちょっと逆にプレッシャーに個人的に感じたりもした部分がございました。

セッション全体というか、私はちょっと偏ったセッションにしか参加はできてないんですけども、割とフラグメンテーション関連なセッションに多く参加したんですが、そちらの中では、IGF のほうでデジタルな面とエコノミーな面と、あとソーシャルな面で分類を、フラグメンテーションに関してもあって、そういう整理と、あとそういうふうなことが起きないようにするにはどうしたらいいのかみたいな、原則みたいなをつくるような活動がどうもされているようで、そういったセッションが専用としてメインセッションに設けられていたというのは特徴的だったかなと思ひます。

あとは、議員セッションというものですが、この項目が今、目に入ったのでお伝えすると、ほとんどがクローズドセッションで、議員セッションは、参加できませんでしたというところで、ちょっとのぞいてどんな雰囲気かというのは、最後のほうの何かまとめみたいなものとして設けられていたところのほか、多分、誰も参加できてないと思ひます。もしかしたら日本政府の方、参加されているかもしれないんですけども、一般からは参加できなくて、ただ、最後の日のほうでしたか、まとめセッションのところで話されている議員の方というのは、やっぱり御自分の言葉でお話をされていたというところがすごく印象に残っていて、これもまた来年の2023のときは、日本の方でそういった場に参加する人ってどういった方なんだろうというのが個人的に気になりました。

一応ちょっとチャングタイさん（国連 IGF 事務局）とお話しする機会があったので、どういうふうにレクチャーとかしたんですかとか、何か IGF 事務局として、ホスト国であったり、議員の方だったりにアプローチされているんですかというの聞いてみたんですけども、特に各開催国のために何かをしたというのはやっていなさそうな反応だったので、そういった意味では、それぞれのホスト国、ドイツなんかは、開催する前に自分たちの議員さんにレクチャー、セッションをしたとおっしゃったよう

な気もするんですが、ホスト国自身が自分たちの国の議員に対しての分だけ報告するのかなというような印象を受けています。

私から今、皆さん向けに共有できるようなことは、それぐらいかなと思っています。本当は、向こうのほうでは、小宮山さんと八田さん、堀田さん、立石さん、意外と日本の方がいらっしゃるなという印象だったので、そういった方たちからの共有もいただけたらなと思っています。

以上です。

【加藤】 どうもありがとうございました。

ほかに、何か先週の件についてコメントとか、あと御質問でもいいと思うんですけども、何かございますか。

あと、かなりリモートで参加されていた方も多いと思うんですが、リモートに参加されて、何か御感想のようなものを持ちの方とかいらっしゃいますか。御質問でももちろん結構なんですけれども。

特にないでしょうか。お名前が見えるので、もし何かあれば。河内さん、何かありますか。お久しぶりの気がします、いかがでしょうか。

【河内】 すみません。ちょっと急に、行くつもりだったんですけども行かないことになったので、なかなか日本にいと仕事とか家のこととか、時間が夜だということもあって、かいつまんでちょっと聞いてみたりとかしてみたんですけども.....。

【加藤】 河内さん、何かつながらなくなったかもしれないですが。

ちょっとその間、本田さん、お願いします。

【本田】 僕も行っていないので、あくまで一方的な質問というところなんですけど、こういうのって次回開催国へ引継ぎというか、ちょっとこのことは来年までに考えてほしいよねみたいな話が出るんじゃないかなと想像するんですが、それぞれ御参加になられた方とか視聴された方で、日本に対する期待とか、アフリカから見た、何というんですか、日本とかそういったほかの国々に対する宿題みたいなもの、もしくは期待感みたいなもの、そういうものは何かあったんでしょうか。どのトピックにということと言うわけではないんですけども、全体的な中でも個別のプログラムの中でも。

【加藤】 それはどうなんですかね。高松さん、もしお気づきの点があればあれですけども。お願いします。

【高松】 ちょっと私の気づきといいますか。IGF の傾向として、ここ数年なのかもしれないんですけども、単発で終わる場ではなく継続的に議論が続くようにみたいな意識が、ここ数年されてきていると思うんですが、そういう意味で、来年のホスト国に何か成果を期待するとか、そういった特定の話題というのは、私が参加した限りでは見えなくて、どちらかというと、それぞれのセッション自体が来年以降も、今回の結果を踏まえて議論が続けられるといいねみたいな、そういったまとめ方がされていっている印象を受けました。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。

通常は、この国だからということスペシフィックに前の年から引き継ぐとか、そういう傾向は、IGF はないと思うんです。高松さんがおっしゃるとおり、最近では、同じようなグループが、毎回、さら

に次の年は前年を引き継いで深掘りするとか、もう少し違った角度から議論するというようなことがあるというので、今年の傾向を見ながら来年もどうしていこうかというのをこれから1年、皆さんで議論していただくのかなと思いますけれども、高松さんそういう感じでもよろしいでしょうか。

【高松】 はい。補足等の、きれいにまとめてありがとうございます。加藤さんのおっしゃるとおりだと思います。

【加藤】 あと、今年特に、コロナはもう2年続いているんですが、ウクライナのこともあって、さっき、高松さんにばかり振って恐縮なんですけれども、フラグメンテーション関係をたくさん聞いていらしたということですが、その辺、フラグメンテーションの話で、特にロシア、ウクライナというようなことも踏まえて、興味深いことってございましたか。

山崎さん、ちょっとこの後でお願いします。

【高松】 興味深かったところと言えば、フラグメンテーションというよりディスインフォメーション辺りのセッションだったかと思うんですけれども、やっぱりロシアからの参加者の方と、あとウクライナからの参加者の方がいて、間違っただけ情報を発信していたら、それはシャットダウンすべきなんじゃないかみたいな、そういったお話があったと思うんですが、じゃあ、その間違っているをどう判断するのかみたいな辺りで、ロシア側の御意見とウクライナ側の御意見があって、結論はその場では出なかったんですけれども、判断って難しいよねみたいな意見が出て興味深かったです。

あとは、フラグメンテーションの話にも関わってくるところかもしれないんですけれども、こういうことをやってはいけないねという平常時、という話があったとして、平常時はそうだったとしても、例えば戦争が起きたときって、ちょっと違う話になってくるのではみたいなところがあり、たとえ戦争状態であっても、赤十字とかが例えば設定している、こういうふうなところは攻撃してはいけないねみたいな、そういったものって例えば必要なんだろうかみたいなディスカッションが、ちょっとそれはセッションというよりはオフな、というかモデレーターが来なくてセッションがキャンセルされてよく分からないセッションで、残った人たちでディスカッションしたようなセッションだったんですが、そういったところで話題になっていたのが興味深かったです。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。山崎さんお願いします。

【山崎】 私の意見ではなくて、河内さんがお戻りになられたっぽいので、続きをお伺いできるんじゃないですか。

【河内】 すみません。いきなり途中で切れました。

さっき言ったのは、オンラインモデレーターが必要だとかって、MAG にボランティアの募集があって、どれぐらいの方が応募したのかとか、その辺は公表というか直接全部結果を聞いていないので分からないんですが、幾つかセッションを見た範囲では、知った顔の人がモデレーターをやっているのが結構多かったんです。なので、エチオピアという場所のせいもあるのかもしれないんですけれども、会場を見ると一般の参加者が、アフリカ系の方が多いかなという感じが見受けられましたが、なかなかスピーカーの方々も、いつもどうなのかというと、そこら辺、前回とかその前とか、ふだんとなかなか私は比べられないんですけれども、そういう現地じゃない方の参加ってどれぐらいだったのかな。いつもと比べて少なかったのかとか、ちょっとその辺はどうなのかなと思いました。

何かそれぐらいであれですけれども。

【加藤】 ありがとうございます。MAG でピンチヒッターで確かに、現地側で誰かコーディネーターというのがありましたね、そういうのも。

【河内】 はい。いつもあるんですね、やっぱり。

【加藤】 いや、やっぱりコロナになってからという傾向は強いと思います。昔は、やはり、ほとんどが現地参加でしたから、リモートの人というのは、どちらかというコメントしたりとかそういうことが主だったですけれども、モデレーターを含めて、かなりのスピーカーが現地参加というのに比べて、コロナになってから今みたいな現象が起こって、特に今回、エチオピアだったということもあって、誰か現場にいたほうがいいということで、そうなったのかなというセッションが幾つかあった感じですよ。

あと、ほかの方、何か御質問、御意見はございますか、この件について。今回ちょっと、お帰りになった方も多分、まだお帰りになった直後で、堀田さんのように、次の場所にもお出かけになる方もいらっしゃるということで、次回以降で何か、また参加された方から伺う機会があれば、ぜひそういうふうに、この会で御報告いただきたいと思います。

ということよ。

【前村】 入りました。

前村さん、よかった。間に合いました。ありがとうございます。お疲れさまでした。

【前村】 河内さんからも少し御紹介ありましたけれども、現地で参加した人から話を聞こうみたいなコーナーですか。すみません、遅くなって、分からなくなっていますけれども。

【加藤】 はい。今そうです。

【前村】 そうですか。

【加藤】 現地から参加された方が、ここには報告ってありますけれども、そんな正式報告とか、そういうのではなくて、感想とか、今年はこんな感じだったとか、今、河内さんからも、どれぐらい現地参加の人、リモートの割合があったのかとか、そういうのを含めて伺えればと思います。

【前村】 クロージングセレモニーで4,000人とか5,000人とかって、ちょっとばらばらな数字が出てきていたんですけども、現地は、恐らく2,000人ぐらいは少なくともいたんじゃないのかなと思います。カンファレンスルーム1がちゃんと埋まるんです。あれ、2,000人ぐらいになるんじゃないのかなと思います。

全体的には、アフリカの方がやっぱり存在感が大きくて、どんといる感じがします。特筆するのはというのは、堀田さんがおっしゃっていたのは、ccTLD が数人しか来てないとおっしゃっていたし、RIR だというふうに僕が見分けられる人も10人来てなかったんで、多分数人、僕も含めて5人ぐらいしかいなかったんじゃないですかね。

それで、ICANN がヨーラン・マービーがいて、あと、もうチームとして、アダム・ピークというのはMAG にいるんですけども、ICANN チームが10人弱ぐらいのチームでいました。なので、Tech が10%切っていました。7%ぐらいが Tech を名乗っていて、したがって、Civil Society が一番どんと存在感があるという感じでした。

それで、全体的には、華やかな感じではいつもどおりでしたし、来られなくてキャンセルになるセッションというのもちょっとあったりなんかして、1つは、飯田さんのフライトがうまくつながらなくて、1日到着が遅れたので、それをキャンセルせざるを得なかったというのがあったんですけども、もう一つは、それが全てじゃないんですが、私が経験したのは、オランダ IGF が主催をするパブリック・コア・オブ・ザ・インターネットというコンセプトがあるんですけども、それを語ろうみたいなのが、オランダ政府だったかな、が企画していたのが、みんな集まって楽しみにしているのにキャンセルになったんですが、その場にいた Anriette Esterhuysen（前 MAG 議長）とか、もう語る気満々の人がたくさんいたんで、そのままホストなしで、1時間使って議論したというのがあったりなんかして、それなりに、いろいろなセッションがあって面白かったなと思います。

あと、IGF2022の、そのものずばりではないんですけども、実はブースをどうするかって話をちょっと前にお話をしていたと思うんですが、ブースを出して、そこでニーズ調査をなささいというお仕事と、昨年、JPNIC のほうで受けさせていただいた、ワークショップとオープンフォーラムの全てのセッションを要約なささいという仕事というのを今年もいただきましたので、それに従って、JPNIC が担当してブースを出展してと。そこには京都のコンベンションビューローの方や、会場となる京都国際会館の方もいらっしゃって、ブースの対応をさせていただいたということで、正式発表は、今日、報道発表があり、金曜日に松本大臣のビデオメッセージによって京都の開催というのを高らかに宣言したわけなんですけれども、ブースでは、もう京都の舞妓さんのピンバッジを配っていたり、会場ではもう京都でやるということをよく知っていただいたんじゃないのかなと思います。

私からは取りあえずそんな感じです。もし、これはどうだったんですかみたいな話があったらお答えしようと思いますが、いかがでしょうか。

あと高松さんもいらっしゃっていましたよね。

【加藤】 ありがとうございます。

高松さんからは、もうフルで今、お一人でいろいろ御説明いただきました。

【前村】 分かりました。

【加藤】 ありがとうございます。

繰り返しになりますが、御質問とか、皆さん、ほかにございますか。

少し参加者が増えてきたんで、まだほかにも、いらした方はいらっしゃらないですかね。

西潟様、入っていただいたんですが、西潟様ですね。

それじゃあ、今回の2022年、エチオピアに関してはこの程度ということで、次に移らせていただきます。

先ほど前村さんからお話があったように、取りまとめというのが今後あると思いますので、もう少し、また詳しい内容の確認のようなことがあるのかなと思います。それは次回以降のこの活発化チームの議論の中でやらせていただきたいと思います。

じゃあ、次に、日本 IGF タスクフォースの発足に関して、これは前村さんからお願いできますでしょうか。

【前村】 何を御説明すればいいのかって話もあるんですけども、御説明させていただきます。

日本 IGF タスクフォースに関しましては、前回の活発化チームで少し集中的に議論していただいて、設立発起人で活発化チーム、参加するというのを決定していただきました。それに合わせて、設立発起人である IAJapan さん、JAIPA さん、WIDE プロジェクト、そして JPNIC で、設立総会に向けていろいろと調整をしております、その中には、設立文書文であったり、あるいはアナウンス文の活発化チームからのテキストというのも皆さんに御検討いただいたということで、11月22日の朝8時から設立総会というのをやりまして、それで、その場で設立が完了したということです。

それで、そこに、ウェブサイトもちょっと、簡単そうに見えるかもしれないんですけども、これくらいのウェブサイトをつくるのもまあ大変でして、ドメイン名を手配するとか、セキュリティーを固めるとか、SSL を動くようにするとかということをやっていると、思うほど簡単ではないんですが、どうにかこうにか JPNIC の職員が頑張ってくれてまして、11月30日の段階では、ちょっと Let's Encrypt (サーバー証明書の発行サービスの一つ) が間に合わなかったんですけども、12月1日には SSL 化も完了して、それでタスクフォースができましたという状態です。

それで、タスクフォースができたことが、即、何かを変えていくということではないんですけども、次回会合が12月の十何日でしたっけ、今ぱんと出てこないです。来週なんですけども、これから会員を集めていくということで。

【加藤】 15日ですね。15日の木曜日です。

【前村】 15日、失礼しました。15日の木曜日が次回の会合なんですけども、会員を集めていくということだったり、活動計画をつくるということの辺りを進めていくということになっています。

なので、そこに関しては、活発化チームとしてどういうふうにか考えるかというふうなことも、加藤さんが運営委員ということでタスクフォースに関与していただくことになりますので、加藤さんから活発化チームに対して、こういうことがありますよとかというふうなことの、何かリエゾンみたいのはやっていただけるというふうなことが、一応公式にはそういうことで、私なんかもタスクフォースも見えていますので、適宜、何でしょう、情報流通のほうはやっていきたいなと思っています。

以上です。

【加藤】 ちなみに前村さんは、このタスクフォースの事務局、実質的に事務局長的なお仕事をされるということで。

【前村】 そうですね。事務局長というのは別に決めてないんですけども、事務局を JPNIC がやるということに書いてありますので、そういうことにさせていただきます。

【加藤】 事務局ということでもう正式に、前村、山崎委員のお二人が御参加ということで、活発化チームと両方、大変お疲れさまですが、そういう立場でも今、御報告をいただいたということですね。

【前村】 そういうことです。よろしくお願いします。

【加藤】 それから、この中にも出てきますけれども、タスクフォースということで、村井さんが、そのタスクフォースの議長でしたっけ、委員長でしたっけ、正式には。会長ですね。ごめんなさい。会長で、江崎さんが副会長ということが選出されました。

それから。今、今回は12月15日と言いましたが、大体月1回ぐらい、この会を開いて、方針的なことを決めていこうという感じでありました。

あと、前村さん、よろしいですか。私のコメントで言うと、あと、気がついたこととして、まだ、あまり細かいところが今の段階では決まっていなくて、例えば今後どういう活動をしていくか、特に今後のIGFの報告会のようなものといいますか、IGFに関するイベントをどうするか、これは活発化チームでも議論するんですが、このタスクフォースとしても、そういうことをやるのか、考えるのかというようなことも、これから議論をするということになっています。

それからタスクフォースの内部にワーキンググループとか、そういう仕組みをつくっていかうというようにも議論が始まっているんじゃないかと思いますが、まだ何も決まっていないという段階かなと思います。前村さん、もし違っていれば教えていただきたいんですが。

【前村】 そのとおりだと思います。

【加藤】 そうですね。だから、ある意味では、活発化チームがうまくそういうところにインプットをしていただくチャンスは、まだまだこれからあるんじゃないかと思います。

それから前回の活発化チームの議論の後、ぜひ、このタスクフォースはマルチステークホルダーを考えてほしいというような御意見をいただいて、私もそれを申し上げたんですけども、村井さんから、もう本当にこのグループはマルチステークホルダーのグループなんだから、それを第一前提にしましょうというようなニュアンスだったと思いますが、そういうことを決めていただいたという経緯もあります。

そういう意味で、うまくこのタスクフォースと活発化チームが連携を取れるように、ぜひ引き続きこの活発化チームから、いろいろな御意見とか御質問とかいただければ、できるだけ、私もリエゾンをやらせていただく限り、うまく両方の情報連絡ということをやりたいと思います。前村さんも、ぜひ活発化チームのほうにも、そういう情報を可能な範囲で流していただければと思います。

【前村】 承知しました。

【加藤】 それで、そういう意味でマルチステークホルダーでやるということで、これからいろいろなところに、こういうグループに参加しろということも、お声がけをいただくのかなと思います。

ということでよろしいですね。

【前村】 はい。そのとおりだと思います。

【加藤】 というぐらいで、中身はもう本当にここに発表いただいたぐらいのことが今まだ決まっているだけで、これからであるというのが私の理解ですけども。

何か御質問とか付け加えていただくことを、今、飯田様も名前を拝見しましたし、西潟様もお名前を拝見していますけれども、何か付け加えていただくことがございますか。

【前村】 高松さんの手が挙がっています。

【加藤】 ごめんなさい。高松さん、お願いします。

【高松】 質問をさせていただきたくて手を挙げました。

こちらのタスクフォースのウェブを拝見したんですが、マルチステークホルダーで、このタスクフォースを運営されていくということで、前回の会合のときに、経団連はメンバーにはならないけれども、何ていうか、協賛だったり、そういった形で何らか関わろうという話があったみたいのところと、あと政府のほうも、発起人などには入っていないけれども、何らか関わられたりされるのかなみたいな、

そういった、何とかメンバーリストみたいなものが、このウェブ上で確認できるようになるとよいのかなと思いました。現在の発起人の総会の資料とかだけだと、そういったところが見えないのかなと思ったので、今後の話になるかと思いますが、御検討いただけるとありがたいかなと思います。

以上です。

【前村】 ありがとうございます。

会則上で総務省はアドバイザーとなることが書いてあるんで、アドバイザーというお立場です。それで、経団連は設立発起人にぜひということを一生涯懸命やっていたんですが、そもそもこういったところに会員として関わるとというのが、経団連というところは、そもそもそういうことしないんだというふうなことの御見解をいただきましたので、その代わりに協賛という形で、会員ではないけれども、経団連の会員企業に対する情報の流通であるとかというふうなことで御貢献いただけるということを逆に提案していただきましたので、それをお願いをしました。その結果、設立総会をやった11月22日の時点で、既に協賛のお申出をいただいていますので、次の運営委員会ときには協賛を運営委員会として承認するという形でやれると思います。そのときには、したがって、協賛団体として経団連をどこかに、ウェブサイト書き入れるということになると思います。

御質問ありがとうございます、高松さん。

【加藤】 今、西潟様から、総務省はオブザーバーであるというコメントがありましたけれども、正式には、今、オブザーバーとして総務省さんは入られて、経団連も協賛として入ると。協賛というのは、会議には、これから出ていただいて、必要なことを経団連の会員の方々にもいろいろ流していただくという理解でよろしいんですね。

【前村】 はい。そういうことだと思います。

【加藤】 本田さん、お願いします。

【本田】 幾つかコメントと質問となんですけれども、別に必ずしもここで回答いただく必要はないと思うんですが、この5つの発起人の団体、プラス、このアルファのところで、会費も集めながら、費用も集めながらやっていくというようなことだったんで。

【前村】 いえ、会費は集めません。手弁当で検討.....。

【本田】 集めないんですか。何か規約で集めるようなことを書いてあったけれども集めない、結局は。

【前村】 そうですね。規約からも、もう削ったほうがいいんじゃないかって議論も直前にやっていたんです。結局、その修正をやらずに、設立総会ときの議決として、会費を取らないということを確認に決議をしています。

【本田】 そうなんですか。

【前村】 はい。

【本田】 そうすると、このグループで、このタスクフォースで何か事業を1つやるとしたら、仮にやるとしたら、それはそのときにお金やら何やら集める、持ち出しで、物納というか、そういう感じにするという感じなんですかね、今のところは。

【前村】 そうですね。このグループが自分の予算で何かイベントをするということにはならず、

もしイベントをやりたいんだったら、設立発起人なり会員の皆さんに呼びかけて、イベント単発の協賛みたいな感じで、そのイベントとして完結させるような感じにするんじゃないかと思います。

【本田】 なるほど。じゃあ通しの予算とか、そういうものはつくらないということですね。

【前村】 つくらない。はい。ということにしました。

【本田】 あくまで任意の融合体というか、そういう感じで。

【前村】 はい。

【本田】 分かりました。御回答ありがとうございます。

あと、これから裾野を広めていくと思うんですが、いろいろな団体、いわゆるインターネット関連の団体も、プロバイダー業界とインターネット協会だけじゃありませんので、特にインターネットの安全とか青少年育成とか、私もちょっとこの前、興味があっていろいろ調べてみたんですが、いろいろな団体が存在していて、それぞれに別々の活動しているようなので、インターネット関連の団体は、余すところなく、少なくとも引き込めるようにということは、ぜひお願いしたい。もちろん、その先はマルチステークホルダーもあると思いますけれども、まず少なくともインターネットに関連するような領域の団体は一通り声をかけていただきたいなというのがあります。

もう一つは、この活発化チームとの絡みなんですが、加藤さんはもちろんチェアで出ているんですが、前村さんはあくまで事務局という立場だと思いますので、もう1人どなたか活発化チームから、加藤さんと一緒になってそういうやり取りをしていただいたりする方が出てくるといいのかなと思っています。それは意見です。

【加藤】 JAIPA の立石さんは、かなり参加されるんじゃないでしょうか。

【前村】 そうですね、はい。

【加藤】 あと、ほか。どうぞ、前村さん。

【前村】 今、加藤さんがおっしゃったように、立石さんも活発化チームとして御活動なされながらタスクフォースも代表として、運営委員としてお関わりになるんで、活発化チームとのリエゾンというのか、情報の橋渡しというのは、加藤さん、立石さん、私みたいな3人でできるということで。

【加藤】 あと山崎さんも当然、参加されているので。

【前村】 山崎さん。ということでもいいんじゃないのかなと思います。

それで、今、運営委員会だけでやるんですけれども、何か手を動かすときにはワーキンググループみたいなものをつくって、そこで具体的な活動をやるということになるかもしれないけど、そのときには活発化チームでどなたかお手伝いいただくということの話をしなきゃいけないかもしれないなと思っています。

【本田】 そうですね。私が今そう言ったのは、堀田さんがいろいろ意見を持ってくださって、それが有効な形だったりしたものですから、今日はいらっしゃいませんけれども、今のようなお話でしたら個人レベルで、このチーム内からどんどん参加していけるようなので、話が進み次第、それぞれの方が任意に参加されるものと理解をしておきます。

【前村】 それでいいと思います。

高松さん、ありがとうございます。

会則中に補足していただいたほうがということなんですけれども、だから会費のところも削っちゃったほうが本当はよかったんですが、すみません、プロセス的に何かそれができずに設立総会になだれ込んでしまいました。だからこそ、設立総会第1回運営委員会で、会費は取らないということを議決で明らかにしたということで、それをオルタナティブにして、どうにか明確にしているということで御了承いただけますか。

高松さん、チャットでありがとうございます。

【加藤】 高松さん、もう一度。

【高松】 今後、例えば、参加しませんかみたいな形でいろいろな組織にお声がけをするときには、設立趣意書と会則を示しつつ、御案内するときの補足で、実は会費は、でも集めないことになっているんですよというのを言いながらお声がけするようなイメージで。

【前村】 そうですね。それを忘れずにやらないと、後で話がまとまらなくなっちゃいますよね。忘れずにやらないといけないですね。

【高松】 すみませんもう1件、お伺いたくて、今後、タスクフォースのほうの集まりが定期的開催されるということで、活発化チームからは加藤さんが参加されるほか、立石さんや前村さんも御参加されるというお話だったかと思うんですけれども、活発化チームとしての意見を述べたり、あとは決議とかがされるかがよく分かってないんですが、そういったときに投票行為を行うのは、全てチェアの高松さんのみと思っていたらよいですか。いま一.....。

【前村】 そうですね、私の理解なので、そこは加藤さんの御理解がちょっと違う可能性は多少あるのかもしれないんですけれども、活発化チームとして加藤さんを運営委員というのか代表としてタスクフォースに、運営委員として指名をしたという状態になっていますよね。それで、加藤さんが、したがって活発化チームとしての意思をタスクフォースに対して示していくということになるというのが普通だと思いますので、必要があれば、活発化チーム側の意向をどういうふうに定めるのかみたいなことを整備する必要があるのかもしれないと思います。必ずしもがちがちにやる必要はなくて、どこまでは、もう加藤さんにお任せする、一任するということを決めるということなのかもしれないですし、その辺は今後、整備したほうが良いことだろうなどは思います。

現実問題としては、そんな加藤さんが、活発化チームの総意で必ずしもないことを何かしゃべっちゃうということはないと私は思っているんですけれども。心配し過ぎなのかもしれないんですけれども、ただ、きちんと決めるのであれば、その辺のことを活発化チームとして了承というのか、どういうふうな形で意見表明するのかというようなメソドロジーを固めておいたほうが良いのかもしれないなどは思います。

加藤さん、いかがでしょうか。

【加藤】 そのとおりだと思います。ただ、今、前回、第1回に出させていただいた限りでも、タスクフォースが事前に何も連絡ないまま、何かすごい重要な決定を、その場に出てきて、そこで求められるというような、そういう会ではないなという気はしましたので、私はそういう、もし本当に、これは活発化チームとして皆様にお諮りする必要があると思えば、そこでは棄権して、それを持ち帰って、後日、メール上になると思いますけれども、確認して、活発化チームとして決めなきゃいけない

ことがあれば御報告するという、決めていただいて、タスクフォースに対してメールで回答すると、そういうことをまずは今はやるしかないと思っています。

それで、実際のところ、タスクフォースの議論はかなりインフォーマルにみんな意見を言うてこうですぬという、コンセンサスビルディング的なことがあって、それはもうタスクフォースの代表が、とかいうよりは、そこにいらっしゃる方々が、前村さんも含めて皆さん、意見を一緒に寄って議論をするというような形で進められていると思います。

それから、先ほどの会費を集めるとか、そういうこともないということで、当面何かすごい大きな方針を決めるというようなことが行われるかということ、今はあまりないと思いますが、もし、そういうことがあれば、私も知れば直ちに、こういうことは決めなきゃいけないことだと思います。活発化チームの方々にメーリングリストで流したいと思います。皆さん、そこで、これはノーと言えとか、そういうことがあれば、ぜひ言っていただきたいと思います。それをどこまで、細かいことまで皆さんに事前に御判断をいただくかというのは、これは確かに難しい問題はあるんですけども、例えば先日、会の発足をアナウンスするというアナウンス文ですね、あのアナウンス文をこういう形で出させていただきますと、これは形式的なことだと思いますというお断りをして、本当は7日間のクリアランスをいただくということができればよかったんですが、内容的にも、極めて活発化チームの今までの内容を形式的に表現するだけだと思いましたので、そういうような内容であれば、場合によっては、今の7日間のラストコールのプロセスなしにやらせていただく場面があるかもしれないです。だけど、それはなるべくないように考えています。少しスタートして、運用が始まった時点で、今、前村さんが言われたように、活発化チームとしての意思決定みたいなものをやるプロセスを決めてもいいのかもしれませんが、もし、そのことについては、前回の活発化チームの議論の中でも、そういうルールをもう1回見直すというのは適時やっていったらどうかということもありましたので、ぜひ、次回以降、そういうことを議題にして取り上げていただければと思います。

以上です。

本田さん、お願いします。

【本田】 おおむね今の御説明と重複する部分もあるかと思いますが、いわゆるタスクフォースでやっているの、三者三様、四者四様ということもあり得るだろうし、JPNIC、JAIPA というところと別の意見が活発化チームから出るところもあるかと思うんです。なので、そのところは、メンバーとしては重複をしていますけれども、あくまで活発化チームとしては加藤さんに一任をするというところで、もし加藤さんが出ないときに、どなたか代理で出席になることもあるかもしれませんが、少なくともそこに上げていくということで合意をしておけば、新たに大きな、大仰な、いわゆる今までのアジェンダというか、あれを変えるまでもなく、既存のルールの中でうまくやっていけるのではないかなと思うところですけども、もう一つは、それ、これはタスクフォースそのものはどうなんでしょう。今後は、状況によりでしょうけれども、公開する方向なんですか。それともある程度クローズドなものなんですか。

【前村】 今のトランスペアレンシーは、ウェブを見ていただくと、会議の資料とかは公開するという感じでやっていますし、議事録は公開されますが、傍聴を認めるようなオープンネスでやるかというのは、何も決まっています。設立総会ときには、傍聴は許さない、許さないというのか、特に関係者だけで集まって議決をするというふうなこと以上のことはやっていないので、多分、あのモードぐらいでやるんじゃないのかなという予感がしている、それくらいですけども。そういうこ

とです。

【本田】 別に見せるも見せないもタスクフォース側の決定なので。

【前村】 いや、まあそうなんです。

【本田】 自由というか、そこは裁量と言うとは思うんです。できれば、そのプロセスも含めて生で見せてもらったほうが良いと思います。なので、やっている様子を何かユーチューブライブなのか何なのか分かりませんが、そういうほうが理想かなというコメントは、気持ちとしては、そういう意見は思いました。いずれにしても、それはタスクフォースの皆さんで進めていくものと思いますので、今後に期待しているというところです。

【前村】 ありがとうございます。

【加藤】 本田さん、ありがとうございます。

ほかの方、質問とか御意見はございますか。

ちなみに、次回12月15日、やるということが決まっているだけで、何か次回、これを決めるというようなアジェンダは何も出ていないので。

【前村】 早く出さないで。

【加藤】 そういう意味で、私が皆様に今、こういうこと決めていただきたいとか、そういうことをお願いするようなことは何もない状況だと思います。

1つ、今後検討していくこととして、さっき申し上げたワーキンググループをつくって何かをやっていくのかとか、それから IGF 関連のイベントを、このタスクフォースとして考えていくのかという辺りが、今後議論になってくるのかなと思っていますが、前回の雰囲気でも、これがすぐ決まるとかというようなことはなかったように思います。

どうなんでしょうか、前村さん、そこは。

【前村】 ちょっとすみません、お答えにならないんですけども、私自身の仕事、準備を進めないで次回会合が始まらないので、そこら辺で自然とデッドリミットがかかっちゃうというのはあるんですけども。

【加藤】 そうですね、そこで、できればなるべく議案が出てくれば早めに教えていただいて、これは、5つの団体、皆さん同じだと思うんです。

【前村】 暦日だったかな、営業日で5営業日以内に開催通知を出さなきゃいけないというふうになっているので、それ以外のことはあんまり書いてないんですけども、会則は、5日以内に開催通知を出して、そのときにはアジェンダを出すということだろうと思いますので、何か決め事があるときには、事前に活発化チームの皆さんも分かるような状態にはするんだろうなと思っています。それくらいです。

例えば.....。

【加藤】 それを拝見して、必要ならすぐ活発化チームの方に御意見を伺うということはお約束します。

【前村】 そうですね。次回の運営委員会で決めなきゃいけないことの1つは、経団連の協賛を承認

するというのをやらなきゃいけないです。ぐらいで、決めることはそれぐらいなんじゃないのかなと思います。

【加藤】 実積先生、手を挙げていただいています。お願いします。

【実積】 すみません、御無沙汰しております。実積です。

今のお話で、お願いしておきたいことが1点ありまして、経団連のほうをどうするかとか、あるいは加藤さんが出られて、その意思決定のときにどういう対応されるかというのは、あくまでも内向きのことで、外から見たらどうでもいいというわけじゃないんですけれども、あんまり関係ない話で、外の立場からすると、いつ Call for session が出るのか、いつ Call for paper が出るのかというスケジュールをとにかく明示していただきたいなというのと。

それから、今日、総務省のほうで報道発表があったというのは分かったと。これで、要は、こういうのをやりますというのを大手を振って説明できるというか、ことであるので、ぜひ、セッションを立ち上げる可能性があるとか、具体的には各種学会のほうに説明のメールというか、そういうことをちょっと努力していただきたいなと思います。なぜかという、今年のIGFの日本でやったやつとか、あるいはこの間あったGPAIというのが、AIの関係があったんですけども、国内のメンバーだけでセッションを組もうといたら、まあ1か月もあれば、それでも1か月ぐらいかかるんですが、なるんですけども、海外から人を呼ぼうとすると、これはもうすごく時間とか手間がかかる話になって、特にドイツから呼ぼうとしたんですが、やはり年度が違ったりする予算の関係があるんで、結構早めに声をかけてあげないと、そもそも人が呼べないとか集まらないとかということになります。今回、京都でやって、そこでもオンラインでというよりむしろ恐らく来てくださというので京都にされたと思うんですけども、そうしたリアルに人を動かすということを考えると、かなり早め早めに、要は向こうの会計年度の前で、予算をちゃんと請求できるというところまでというところをやらないと、来たくても来られないというか、せっかく京都でやったんだけど、オンライン会合になってしまって、コロナ中と全然変わらんじゃないかということになりかねないので、ぜひ Call for session とか、こういうふうなフォーマットでやるので準備しておいてねというふうな呼びかけを早め早めにやったほうがいいかなと思いました。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。

【前村】 お答えします。

【加藤】 前村さん。

【前村】 1つは京都、総務省からプレスリリースが今日出ていますけれども、京都のIGF 2023に対する Call for paper なんかは、ローカルホストではコントロールしていないところで、マルチステークホルダーアドバイザリーグループのほうでコントロールしていることで、恐らく4月.....

【加藤】 そうですね、半年ぐらい前には出ますね、普通。

【前村】 はい。それぐらいにはワークショップの Call for workshop proposal が出てきてそれ、そこからいろいろとプログラムの調整が動いていくと思うので。国連はそれなりに気をつけて前広にやっていると思います。

【実積】 それに対して発言してよろしいですか。

【加藤】 はい、お願いします。

【実積】 前村さんの言っていることはよく分かるんですけども、それは常に IGF に関して関心を持っている人に対して動くと思うんですが、日本の場合、そもそもインターネットガバナンスというのを知っている人が少ないので、そこからスタートして、準備をある程度した上で半年間前の Call for paper を迎えるという準備、対応かなと思うんです。その意味で、要は IGF がリテラシーがゼロのところから始めなきゃいけない団体もいっぱいあるので、それを考えると半年前に出すから十分だろうというのはちょっとあまりにも、人を呼ばなくて今のメンバーだけでちっちゃくやるんだということになってしまわないかと懸念します。

【前村】 なるほど。

【加藤】 前村さん、そういう意味では、実積先生がおっしゃる意味は確かにあるので、そういう IGF を10月に京都でやるという前提で、このタスクフォースで、どうやっていろいろな方に呼びかけるかということも、これ、次回か、早い段階でちょっと議論していただくのがいいんじゃないでしょうか。

【前村】 うん、そうですね。

【加藤】 確かに4月に国連から Call for session か paper が出たとしても、その前に予算化しておきたいというか、3月までに予算を取っておかないといけないという方があるとしたら、1月とか2月に、こういうことがあるよということタスクフォースなり、活発化チームでも一緒に御協力するにしても、何度も何度も、こういう IGF というものがあるって、10月に京都でやりますということをお伝えする中身をやっていくというのは非常に重要なことかもしれないですね。

【前村】 そうですね。その辺を、タスクフォースのほうは、何かプロモーション活動をやるということまで必ずしも視野には入っていないので、そうすると、何でしょう、日本 IGF 2023をどうやるかとか、あるいは IGF、今回の2022の報告会をどうやるかみたいところで、いろいろなものを組み込んでいって、活発化チームとして組み込んだほうがいいのかもしいないんですよね。なので、その辺もちょっと考えていく必要があるんだろうなということ。

【加藤】 そうですね。切り分けとしては、確かにタスクフォースは、そういうことを政府にリコメンドするということが主眼で、そういう呼びかけは、この活発化チームの名前のほうが、今の立てつけだとじっくりいくのかもしれないですね。

【前村】 そうですね。

【加藤】 本田さん、お願いします。

実積先生、それでよろしいでしょうか。御指摘の点は、もうごもっともだと思います。

【実積】 個人的には、どういう形であれ、1つ提案しようと思っている、でいいんですけども、ほとんどの人は知らないのです。

【加藤】 そうですね。

【前村】 そうですね。

【実積】 3月の段階で出すときには、ある程度、研究成果というか、下準備とか先行文献を読むとかが終わっていないと無理な話になるので、それを考えると、できるだけ早く存在自体を知らせたほ

うがいいかな。要は正式決定云々というのはもちろん分かるんですけども、こういうのがあって、こういう問題があって議論しているんだよ、できればこういうのを出してねというのは、属人的でも構わないので目をつけておいていかないと、日本初のセッションをせっかく日本でやってもないなどというのは悲しい、運営者のほうはちょっとつらくなるんじゃないかなと思いました。

あと、参加者のほうも、先ほど高松さんのほうでしたっけ、現地でやったらアフリカの方がいっぱい来て賑やかなセッションでしたという話があるんですけども、今のままで、各会場に日本人がゼロだったら寂しいなというのを思うのは私だけでしょうかというところがちょっと懸念です。以上です。

【加藤】 前村さん、やっぱり、可能であれば次回の15日のタスクフォースの場でもそういうことを、なるべく日本からの参加を促すとか、これはタスクフォースの業務をそこまで実際やるかどうか別に、議論の項目に挙げていただいてもいいんじゃないでしょうか。

【前村】 そうですね。はい。

【加藤】 どうしたらそういう声をかけられるのか。そのために活発化チームを使っただけになり、このグループでみんなに声をかけるなり。だけど、タスクフォースのメンバーの方にもいろいろなネットワークがあるから、そこ経由で流していただいてもいいんじゃないかと思うんです。経団連さんも、今回そういう趣旨で協賛されるということですから、経団連さんもそれができるし、そういう意味じゃ、もう1月ぐらいに、何かそういうアナウンスなり呼びかけというのがあってもいいのかなと思いますので、ぜひ、今度のタスクフォースでも、一応これ、項目に挙げていただいたらどうでしょうか。

【前村】 そうですね。はい。それ、次回、話したほうがいいですね。活発化チームのほうが得意なところとか、タスクフォースを使うほうがうまくいくところとかあると思いますので、その辺、次回、話すようにしましょうか。

【加藤】 はい。よろしくお願いします。

本田さん、お願いします。

【本田】 今の実積先生の御意見も踏まえながら、少し思った点で短くコメントすると、どちらかというとタスクフォースは、そのIGF自体の設計をというほうなんだけれども、とりわけ、どっちがやるかは別として、日本の人たちに向けて啓蒙するために、やっぱり報告会はやったほうがいいだろうし、ちょっとまた次のトピックでやるかもしれないませんが、報告会をやったほうがいいだろうし、それプラス前哨戦というか、いわゆる下準備というか、本選の前の予選というか、そういったもので何かイベントをやって、インターネットガバナンスに対する理解を深める、プラスそこへ向けての議論の下地をつくるとか、もしくは実際の本番の Call for paper に、こういうふうにして応募しますよみたいな具体的な何か手ほどきみたいなものもあったりするといいのかもしれないし、そういった意味で、日本とかアジアとか幅広く、皆さんが日本IGFに実際に参加してもらい、発表してもらえるようなものを作るというのはすごいいいアイデアだと思いました。

【加藤】 ありがとうございます。

西潟さん、お願いいたします。

【西潟】 お疲れさまです。現地にいらっしゃった方は、無事のお帰りおめでとうございます。

【前村】 ありがとうございます。

【西潟】 すみません、実積先生からの話の流れで、河内先生がいらっしゃるのであれば、ちょっと雰囲気共有していただきたいと思って、質問とコメントということなのですが、実積先生ぐらい経験をお持ちの方は、別にセッション、応募のところまで心配、私からなんかは申し上げないんですけど、私が別の立場でIGFに参加したときの経験からいうと、ダイバーシティだったり、特にそれはいわゆる肌の色から始まるダイバーシティ、それからジェンダー、それからステーキホルダーのダイバーシティはもちろんなことみたいな、入り口のいわゆる足切りと言うとあれですが、結構厳しかった記憶があるんです。そういった意味で、そもそも実はどこの国でやろうとも、多分、例えば日本人が日本の学会だけでというセッションは滅多に成立しない。私が知っている限り、中国が何かセキュリティの話で持ち込んできて、中国人、少なくとも外見が中国人の方、国籍はばらばらなのかもしれないけれども、がドーンと五、六人並んでサイバーセキュリティの議論をしていたセッションを見たことがあります、それ以外はほとんど見たことがなくて、というような現実に照らしたときに、実積先生の問題意識はごもっともで、それに対するアクションを多分取られることを、私もオブザーバーの総務省としては期待するんですけど、他方で、いわゆるセッションを応募するというものの、何ていうんですか、要するに、例えば何となく期待値だけあって、みんなでやってみましょうというほど簡単なことではないと私は理解していて、ことIGFでワークショップを取るとなると。というところの、最近、私も2年間ぐらいちょっと直接の、日本に帰ってからなのですが、やっていないのであれなんですけれども、実際MAGで携わっていらっしゃる河内先生とか、あるいはその横で、今回のホストに関しては、少し発言力があるという意味での飯田さんとか、もしいらっしゃれば、どういう感触でいらっしゃるのかというのをここで共有いただけるととっても有益なのかなと思ってコメントいたしました。

ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。

御指摘が、御指名があったので、飯田様、お名前を拝見したんですが、いかがでしょうか。まさにそういうセッションを何度も参加して.....。

【加藤（総務省）】 ちょっと今日、飯田が、毎回アカウントがややこしくて申し訳ありません。

【加藤】 そうなんですか。ごめんなさい、お名前だけなんです、これ。

【加藤（総務省）】 総務省の飯田の下で加藤、河合で入っているんですが、すみません、飯田が体調を少し崩しているところもあり、今日の参加は少し難しいかなというところがありました。

【加藤】 分かりました。大丈夫ですかね、エチオピア。お疲れのようで。

【加藤（総務省）】 はい。一応メールとかではやり取りを。ちょっと会合、エチオピアのときからかなり実はしんどそうにしています。すみません。そのような状況です。

【加藤】 分かりました。河内さんのお名前も出ましたが、どうですかね。何か御意見ありますか。

【河内】 いや、MAGを続けて何とか、その辺、密にコミュニケーションを取って、皆さんに御協力いただいてやっていければいいかなと私は思っています、というところまでしか言えません。すみません。

【加藤】 今の西潟様の御指摘、全くそのとおりでありますが、恐らく、先ほどの実積先生の御懸念とかコメントと組み合わせますと、早めに、例えば1月とか2月に、こういうことで、いろいろなセ

セッションを考えたかどうかというお話をしながら、そういう中に、このIGFのセッションというのは、当然セッションの中身について、マルチステークホルダーの参加をなるべく期待される、いろいろな国の人が、そのセッションに参加することを期待されるというようなことも一言述べて、ただ、そういう方々が、直ちにそれができるかどうか分からないので、そこは、また、このグループとかでいろいろお手伝いするというので、多分それは、実際、IGFの正式募集がある段階で、いろいろとお手伝いしたり、いろいろな方に海外の方を御紹介して参加をいただくとか、そういう形で活発化チームでも支援していくということが出来るんじゃないでしょうか。まず、そのスタートをするというところ、何も知らないまま終わってしまうと困るところが、まず、実積先生の御懸念だったと思います。

実積先生、いかがでしょうか。そういうような感じで。

【実積】 具体的な回しは、私は恐らく関与できないと思うので、やり方はお任せしますが、少しでもこれを機に、せっかく日本でやるんで、IGFに関して認知が少し広がればいいなと思っていますので、やっている人に発表してもらおうというだけでは多分足りないだろうなと思っています。以上です。

【加藤】 分かりました。ありがとうございます。

じゃあ、そういう前提で、御指摘のとおり、なるべく、いろいろIGFのことよく知っていらっしゃる方がサポートするということをできればというふうに。

これ、ちょうど山崎さんから。そうですね、(MAG 会議資料として公開されている2022年の)線表。Call for session、今年も4月22日だったんですね。だから6月まで、若干延長になることがありますけれども、それぐらいの期間が正式なんです、その前に、こういうことがあるよということと言うことは、ぜひ検討していきたいということをお願いします。

【前村】 あれですね、注目点というのか注意点としては、アジスアベバは11月の28日からだったんですけども、京都は10月の8日からなんです。だから1か月半ぐらい。

【加藤】 前倒しになる可能性ありますね。

【前村】 前倒しというのは、ちょっと頭の中に入れてほうがいいのかもしいですね。

【加藤】 そうですね。

【河内】 そうです。すみません、河内ですけれども。

多分、去年の、この一番右から2列目の一番上に Second IGF Open Consultation and MAG Meeting は7月の初めだったんですけども、もともとは、これ、2回目は多分6月の予定だったんです。何かほかのイベントにぶつかるとかで、これをずらしたんです。なので、今年は後ろが早いというのもあって、多分、少し前倒し、早めになる可能性はあるかなとは思っています。

【加藤】 ありがとうございます。

いずれにしても、1月早めに、どっかでこういうことを、もう一度皆さんに知っていただくということを検討していくというのを、この活発化チームとしても、ぜひアジェンダにしたいと思っています。

【実積】 すみません、提案なんですけれども、関係する各学会、いわゆる人工知能学会から電子情報通信学会の様々な通信関係の学会というのはあると思うので、そこにぜひ、誰の名前か分からないですが、メーリングリストに載せる情報を送られたほうが良いと思います。Call for paper を募る前にな

くても、情報提供でも構わないので、日本でこういうことがあると。総務省の報道発表をしたから、みんな知れというのはちょっとあまりにも傲慢な話であって、ほとんどの人は総務省のホームページを見ないので、メーリングリストに流すということだけはちょっとやっていただいたほうが、そのための文書をつくっていただければ、つくっていただいて各学会の事務局に流すということは、少しやられたほうがいいかなと思いました。

【加藤】 こういう学会のコンタクトリストみたいのがあるんでしょうか、今。山崎さん、我々、何か持っていますか、それ。

【山崎】 10月末の日本インターネットガバナンスフォーラム2022のときは、情報通信学会が載っていたぐらいで、あと JILIS(一般財団法人情報法制研究所)ですかね、それぐらい以外は載っていなかったんですが、ちゃんとしたリストを持っているとは。

【加藤】 あんまり学会のリストってやっていないですよ。

【山崎】 はい。言えないと思います。

【加藤】 ちょっとそれは、どなたが持っているのか。それと中身をもう1回つくるということを、この後、少し考えたほうがいいですね。

【山崎】 活発化チームの最初のときに、広報先リストを、長いのをつくったので、その中にあるかもしれないですが、ちょっとそれをもう1回取り出して。

【加藤】 そうですね。はい。

【山崎】 皆さんに見ていただくようにします。

【加藤】 分かりました。じゃあ、ちょっとそれは今日のミーティングの後、宿題事項として、まず、その中身をつくるということと、メーリングリストの宛先を確認するという2つは todo 事項にしたいと思います。ぜひ有志で、それをやると。それと同時に12月15日のタスクフォースでも、そういう問題を提起して、御意見いただくということにしたいと思います。

それでよろしいでしょうか。どなたか、まだ御質問とか御意見はございますか、この件について。

じゃあ一旦、タスクフォースの件は、これで終了させていただいて、先ほど飯田様は、今日は御欠席ということですが、繰り返しになりますが、総務省さんから何か付け加えることとか、来年の京都の会議の準備等、今後考えていらっしゃるアクションアイテムとか、何かそういうことをお伺いすることございますか。

【加藤（総務省）】 総務省の加藤です。ありがとうございます。

ちょっと今日、飯田がかなわなかったんですが、多分、話が出たと思いますが、今日の14時で、報道発表のほうはさせていただきました。

それから会場のほうでもクロージングセレモニーのほうで総務大臣から正式に発表したということも、ビデオメッセージで発表したということもありますので、ここから少し、この準備に向けて動いていきたいなど。もともとこの会合の日程を決める際も、実は10月の初めになったということも会場の都合であったりとか、いろいろなコミュニティーの都合であったりとか、いろいろなすったもんだがあって、この日時にはなったんですけれども、やはり例年より少し早め、11月、12月で IGF がやっているということを考えると早めのスケジュールになるので、先ほどの話にもあったとおり、少しタイト

にいろいろなものを準備しなきゃいけないというつらさはあるかなとは思ってまして、その辺は、もちろん抜かりなくやっていきたいんですが、あと一方で、このホストをするに当たって、会合の開催する予算組みというのを総務省のほうでやっておりまして、まだ金額の最終的な詰めを今やっているところなので、まだ固まりはしないんですけども、結構それなりの規模の予算取りをしています。ですので、我々も事務的には会場ですとか、あるいは会議の運営を担うような業者さんとかと話をしながら、早急に、この規模の会議をやる契約を進めないといけないというところがありますので、事務的にはそれでやっていきたいと思っています。

あと現地を見た感触として、もちろんエチオピアなので、何というんでしょう、こんなんでもいいのかなというところもなくはなかったんですが、例えば、レセプションも結構盛大にやっていたりとかもして、割と国の威信をかけてやっているような感じも受けはしました。

それから、あと、話があったかもしれませんが、京都のアピールをしたブースは大盛況で、もう会う人会う人から、来年に向けての期待値というのはすごく高まっていますし、必ず行くと言っている人たちも相当程度、参加者の中にはいましたというところですよ。

あと、これは我々の課題ですけども、よくグローバルサウスと言われるような、本当にいろいろな国からの参加者をどうやって集めるかというところも国連側の課題の1つとして、どこまでできるかというのはありますが、先進国のみならず、本当に多様な、今回はアフリカだったので、参加者の多数がアフリカから来ているということもあったんですけども、なかなか日本に行きたくても行けない人へのサポートというのをどうするかというのは検討課題としてあるかなとは思っております。

雑駁な形でいろいろと述べましたけれども、我々としては早め早めに準備を進めたいなと思っております。

以上です。

【加藤】 どうも加藤様、ありがとうございました。

御質問等ございますか。皆さん、よろしいでしょうか。

それでは、もしなければ、この問題、総務省様からの御報告も、今、併せてやっていただいたので、次のアジェンダアイテムに行きたいと思います。

これは、まだ意見交換の段階ですけども、7番目のアジェンダ、今後開催するイベント、IGF 報告会について、この辺、何か、ここに書いてあるように報告会を開催するかどうか、開催するとしたらいつ頃かとか、この辺について、まだ早い段階ですが、御意見ありますでしょうか。

今までの活発化チームの議論の中でも、もう少し定期的にいろいろな 이슈を決めて議論することを考えたかどうかとか、来年も、日本開催の前に、また何らかの会をやったらどうかという御意見があったと思います。プログラム委員会の打ち上げの中でも、もっと早めに、春ぐらいに、もう一度日本のイベントをやったらどうかというような意見もありました。ということで何か、皆さん、現時点で御提案とか、こうなるといいな、ということだけでも意見交換していただければと思います。いかがでしょうか。

本田さんお願いします。

【本田】 こうなるといいな、だけなんですけれども、12月は、もう年末もあるし難しいとしても年明けに、できるだけ早い時期に報告会をやっていただくというのがいいかなと思います。それに備え

ては、それこそ、帰られてすぐなんですけど、現地参加された方も、もしくはここからもう少しビデオを見たり、もしくは例の JPNIC さんに御協力してのレポートを書いたりする人もいますので、それをちょっとやりながら、準備ができた中で、前回のように大規模で、前回というのはこの前の秋イベント、秋イベントという名前はやめたんだと思うんですが、秋にやったイベントのレベルまでは行かなくても、もう少し小規模に、シンプルな形で報告会をやって、できる限り皆さんの議論というか、頭、国内というか、中でもトピックをヘッドアップできるようなものになればいいのかなというのが1点と、もう一つはもっと広く、先ほど実積先生のお話にもありましたけれども、アカデミックも含め、もしくは産業界、ビジネスも含め、いろいろな人がこの IGF というところの場を知っていただく、参加するかどうかは別としても知っていただくという意味でのイベントです。それをもう少し、何というんでしょうか、裾野広くできればいいのかなという気はしています。

タスクフォースで、もう少しやってもらったらいのかなという思う部分も個人的にはありますけれども、やっぱりちょっと毛色が違うというか、ある程度、活発化チームのほうがもしかしたら小回り利くのかもしれないし、ちょっとどんな感じがいいのかは、細かくは分かりませんが、何とも提案できませんが、報告会とはまた別に、別立てでイベント、春イベント、秋イベントに続いての春イベントというか、あったほうがいいのかと、そういうアイデアです。

【加藤】 ありがとうございます。

ほかの方いかがでしょうか。

特にございませんか。

先ほどちらっと山崎さんですかね、タスクフォースの何かスケジュール的なのが、タイムラインというのが出ていましたけれども、これ、山崎さん、何か出していただいた理由はありますか。

【山崎】 高松さんからチャットで来ていたので、タスクフォースのタイムラインが参考になるんじゃないかということだったんで、コピペしました。

【加藤】 分かりました。

これはたたき台で、たしか前回の会議では、9月に国内イベント開催というのは、結局、その国内イベントに関する方針を3月に検討しようというところで終わったということですよ。9月開催は決定ではなくて。

【前村】 前村ですけども、そうです。国内イベントのところは、すごく暫定的に書いてあるというのか、これ、活発化チームがやっていることなんです。タスクフォースとしてどういうふうな上手な関わり合いをすればいいのかというのは、タスクフォース側で決めなきゃいけないことなんですよねという。タスクフォースと活発化チームを別物として捉えたらそういうふうになるわけですよ。なので、そこは、今後検討していかなくちゃいけないんだと思います。ただ、タスクフォースに集まってこられる皆さんは絶対に引き込んで、国内イベントというか、日本 IGF 2023になるんだと思うんですけども、それに関わっていただいて、IGF 2023を盛り上げるという感じに持っていかなくちゃいけないと思いますので、タスクフォースとしても、もちろんすごく意識しなくちゃいけないでしょうし、活発化チームが、ここに対して一番の専門性と知識を持っていると思いますので、頑張っていかなきゃいけないなと思います。

【加藤】 タスクフォースのほうも、国内イベントをやるかどうか、どうするかということは今後議

論していくというのが、このタイムラインの御趣旨ということで、活発化チームもそういうことを見据えながら、今、本田さんからお話があったように、まず、報告会をやるのか、それと、それ以外にも国内イベントをやるのかどうかって、これ2つを決めていきたいと思います。

今日、なるべく御意見いただければ、次回でもう少しこれを詰めて、もし報告会をやるとなると、もう早々に準備等をしないといけないので、今日、なるべく御意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

特に、先ほどの実積先生の御指摘にあったように、いろいろこういう会をやって、いろいろな方に声をかけて IGF のことを御説明するセッションとか機会があるということは、多分、相乗効果があるのかなとも思いますので、そういうイベントも意味があるかと思えますし、もう一つ、今の報告会の関連で、先ほど前村さんが御報告いただいた、JPNIC さんとして、今年の2022のエチオピアのイベントの取りまとめみたいなのをなさるとい、昨年に引き続き、あれって完成の時期とか外部への公開とか、そういうのもあるんでしょうか。

【前村】 前村です。

そうですね、完成の時期というのは、もう、何でしょう、3月末に完成するように、こういうふうなプロジェクトになっていますので、4月になると公開していったいいのかもしれないなって感じになると思います。

去年もやったんですけれども、去年はもういかんせん3月の1ヶ月で全部仕上げて出せみたいなことだったので、行き届かなかったところがあったりなんかするんですが、今年は、それでは許されないというのか、きちんときれいなものをお出しして、したがって、それは公開できるようなものというのを目指していこうと思いますので、という意味で言うと、それは4月とか5月とかにならないと、お見せできないということなのかなと思います。

【加藤】 それがもし4月ぐらいに出てくると、それも取りながら報告会、ちょっと時間がたってからなんですけれども。

【前村】 報告会は早めにやったほうがいいだろうなと。

【加藤】 本当は早めのほうがいいですかね。切離したほうがいいですか。

【前村】 どちらかというとも報告会を拝見して、こちらのほうが執筆するほうがいいなと。

【加藤】 なるほど。報告会で全体の雰囲気の間違わないかを確認してということですね。

【前村】 そうです。なるほど、そういうことかとかいって執筆します。

【加藤】 そういうことですね。

という意味で言うと、前村さんもやっぱり報告会を1月か2月ぐらいにはやったほうがいいという感じですか。

【前村】 はい。鉄が熱いうちにとのことです。

【加藤】 やるとしたら、確かにそういうんで、やっぱり二、三時間、1日最長3時間ぐらいですか、そういう報告会でしょうかね。

【前村】 それはプログラム委員会というのか、イベントをどう考えるかの主体が考えることなんで

すけれども、どうでしょうね。

【加藤】 一応プログラム委員会、この活発化チームは一度、前回は1回解散になっているので、新たに、そのためのグループを同時に立ち上げないといけないですが、方向として、IGF 報告会はやるという方向ですかね、今。

皆さん、いかがですか。

【前村】 前村ですが、高松さんの手が挙がっていたような気がするけれども、高松さん、どう？

【加藤】 高松さん、お願いします。

【高松】 報告会についてなんですけれども、まず、聴衆を詳しい人、ある程度今までの議論を知っている人に向けにするのか、ちょっと新しい人たちも入ってきてくれるようにプログラム提案を試みたいというふうなのにつながる方向になるよう、あまり詳しくない人たちにも分かるような聴衆にするのかという、その検討を先にしたほうがいいなと思ったのと、登壇者については、現地参加した人だけでなく、録音・録画みたいところを聞いてレポートするという方法もあると思ったので、その辺り、登壇者をどうするのかなというのが気になりました。

来年、できるだけ早めに報告会をしたほうがよいというのはもちろん分かるんですけれども、登壇するのを誰にお願いするのか、そこは1つ大事なポイントになると思うので、登壇者が集まる、都合がよいといったところで報告会をするのか、例えば1月早々にやりたいので、そこで誰か、現地に行っていない人でもレポートできる人で登壇者を集めるのか、そういった、何とていうか、何を軸に報告会をするのかというのを決めたほうがよいかと思いました。

ちょっと考えながらしゃべっているのでごちゃごちゃになりましたが、気になった点を取り急ぎお伝えします。

【加藤】 前村さん、いかがでしょうか。報告官の方も、確かに、今までの報告会は割と、IGF をよく知っている人が掘り下げて報告するような傾向があったと思うんですが。

【前村】 そうですね。私というか、どうするのが一番、最大パフォーマンスが出るかなというのを皆さんで考えるんだと思うんですけれども、それは実積さんが思うのは、もう本当にこの活発化チームの冒頭からおっしゃっているように、知らない層にどうやって関与してもらうのか、エンゲージするのかという話なので、上手にやったほうがいいですよ。活発化チームとしてのポジションを決めるというふうな言い方で高松さんはおっしゃいましたけれども、どれが一番いい戦略なんだというのはよく考えたほうがいいだろうと思います。

【加藤】 本田さん、手を挙げていただいています。

【本田】 IGF に詳しい人か一般人かというのと、ちょっとすごい落差があると思うんです。IGF に詳しいというのが何をもちって詳しいというのか分からないんですが、要は、インターネットを使っている人は、みんな関係しているんだよというのが1つの切り口だと思うんです。インターネットを使っているというのが仕事で使っている人もそうだし、ユーザーとして使っている、自分のビジネス運営のために使っている人もそうだし、インターネットそのものを運用する技術に関わっている人もそうだしというところで、だから、何とていうんでしょうか、幕の内弁当になっちゃうと、かえって分かりづらいのかもしれないんだけど、要は誰でも彼でも関係しますよというようなレベルに、ふんわりしたレベルでいいと思うんです。プラス、何とていうんでしょうか、国際的な雰囲気というのを、少しエ

ッセンスを皆さんが、特に現地に行ってきた方は持って帰ってきてもらえればうれしいなと思うところもあります。だから現地の雰囲気、行った雰囲気、いろいろな人が来ると、国連だけじゃなくていろいろな人が来るとどうなるのかという議論の流れとか。今、先ほども少し報告で触れられたところもあるんですが、そういうところで言うと、一般人と言うとあれなんだけれども、インターネットガバナンスの一番ホットなところが、温度感というものが伝えられるようなイベントになればいいのかなと。ただ、一般的なセッション説明というふうなところではなくていいのかなという気がします。

あとは、やっぱり個々のトピックが、具体的にはこの5つの今回テーマでしたよね。そのところでできればいいと思うんで、必ずしもその3時間とか時間にこだわらなくてもいいのかなという気はしますけれども。

【加藤】 ありがとうございます。実積先生からチャットのほうで、インターネットガバナンスについて何も知らない一般の方が IGF 2023につながると、そういうことがいいんじゃないかという御指摘をいただいています。ほか、いかがでしょうか。

先ほどの実積先生のお話を受けて、もう一度2023年のことを知らせようというアナウンスとも併せて、報告会をやるのであれば、割と今までIGFを知らない方にも出てもらえるような、聞いていただけるような、そういうのを検討するというのは意味があるんじゃないかなと思いますけれども、いかがでしょうか。

【前村】 前村ですけれども、よろしいでしょうか。

【加藤】 はい。

【前村】 全く、もうおっしゃるとおりだと思います。それで総務省としては、2023のIGFの誘致というものが実を結んで、プレスリリースが本日、出たわけなんですけれども、これからは、インターネット前提の社会みたいな言い方をIGF 2023でも出していこうとするとすると、インターネット前提のIGFみたいなものは皆さんに聞いていただくということで、ピッチしていかなきゃいけないと思うんです。

それで、IGFの報告会を、2022がどうだったかというのは、そのもう最初の最初のイベントとして、ぜひともやったほうがいいでしょうし、そこには、本当にインターネットを知らないような人たちまでどうにかリーチをして、こんなのあるからみんな聞いてよねというふうな感じで持っていくというのは重要なんだろうなと思います。

【加藤】 じゃあ、もし、今日、これが決定ということではないにしても、今回、まず.....。

すみません、高松さんからコメントが出ていますね。そうですね、タスクフォースの方にも、そういう啓蒙普及のためのお声がけをお願いするという、そういうふうな連携もいいのかなと思います。そういう意味で、先ほどタスクフォースに、12月15日にお話しするというのも、今、活発化チームでも、今回の報告会というのを検討し始めているということまで、これ、申し上げていいのかなと思います。

次ですけれども、提案ですが、その報告会を、1月はちょっと時期的に厳しいかもしれませんが、例えば2月とかにやるとして、今回、エチオピアに参加された方々で、その方に限らない方を登壇者にするという前提ですけれども、やはり参加された方がある程度限られているので、その方々のスケジュールとか、その辺を含めて、一度、この会議の後も皆さんにちょっとアンケートなり、日程の感触を伺うということでもよろしいでしょうか。

前村さんとか、今日、御参加じゃないですが飯田様とか、高松さん、堀田さん、あと先ほどの立石さんとか、この活発化チームの関連でもお出になっている方々が、例えば2月辺りなら、そういうことがあれば参加できるということがあれば、どういう形で御準備いただくかは、あまり負担にならないことでもいいと思いますけれども、もしお集まりいただく、リモートでもいいですが、そういう会ができればと思います、いかがですか。

前村さん、いかがですか。何かいつも……。

【前村】 今ちょっと見ています。2月20日からが APRICOT、その前が JANOG、これはどうかな。2月の最初のほうは大丈夫ですという感じです。

【加藤】 2月の初めの方って皆さん、準備が間に合いますか。大丈夫ですか。

【前村】 確かに。

【加藤】 ただ、3月になっちゃうと年度末とかいろいろお忙しい方が増えてくると思うんです。APRICOT の前の週はどうですか。

【前村】 3月になると IETF と ICANN があるんですが。

【加藤】 そうですね。

【前村】 APRICOT の前の週ということだと20日の週、2月の20日の週ですね。

【加藤】 いや、13日からの週はいかがですか。13、14、15辺り。

【前村】 私は大丈夫そうに見えます。

【加藤】 本田さん。

【本田】 たしか何かも去年、何かこの時期の計画をしたような気がしたんですが、結局、2月の初め辺りがいいよねという話をしたんだけど、結局ぎりぎり1月の終わりがけぐらいのときに、かかるかからないかぐらいのときでやったような記憶が、何かのことがあった記憶がするんですが、後ろにずらすことはもちろんできるんですけど、後ろにすればするほど、また大変になっちゃうので、別に規模とか、すごい入念さとかということ、あんまりクオリティを高く求めなければ、1月後半、もしくは下旬、もしくは2月上旬の開催も可能ではないのかなと思います。基本的には年末年始にかかりますので、その2週間とか3週間とか、ほぼ、あまり集まってはできないと思いますが、なるべく今日からスタートしても、早い段階で固められれば、別に1月下旬の開催は、十分目途とすることができるんじゃないかと思いますけれども。

【加藤】 それじゃあ、1月の30日の週、2月の6日の週、2月の13日の週で、皆さんの御都合を伺いますか。

【本田】 特に登壇してくださるであろう方ですね。

【加藤】 そうですね。はい。

【本田】 もちろん参加者の意向あれなんですけれども、登壇してくれる人が集まらないことにはしようがないので、その時期だったら出られますよと、登壇してしゃべれますよ、もしくは準備を手伝いますよという運営方を、その中から例のごとく調整さんをするという感じでどうでしょうか。

【加藤】 間違いなく声がかかると思いますので、前村さん、高松さんいかがですか。今の3つの週

で調整さんが行ってもよろしいですか。

【前村】 それで結構です。

【加藤】 高松さんもよろしいですか。

【高松】 丸の数とかは保証できませんけれども。

【加藤】 もちろんです。

【山崎】 すみません、山崎ですけれども、どの週について調整さんをはけるといふのをちょっと聞き逃しました。

【加藤】 失礼しました。1月の最後の週ということで、1月、もう本当に最後ですけれども、1月30日の週です。それで、次が2月6日の週、それから3つ目が2月13日の週、この3週間でどうでしょうかということです。早めのほうがいいということで、ただ、準備が間に合うかどうかというの、別途、御意見いただければと思いますけれども、その3つの週でどうでしょうか。

【前村】 前村ですけれども、日本 IGF2022は、結構、厳格にというのか、Call for paper をして、広報プレゼンテーションをして、ちゃんと審査をしてみたいなことをやったんですが、こっちのほうに関しては、もう IGF2022を見て語れる人が語るというのが第一義だと思いますので、そこら辺のプロセスは軽くていいんじゃないのかなと。

【加藤】 ええ。何かすごい準備をいただくとか、そういう必要は全くないので、どういう内容にするか別にして、皆さん、10分ずつ感想を述べていただいて、あとパネルディスカッションみたいにするのもいいですし、その辺は別途決めると。

【前村】 その一方で、できるだけエンゲージメントは頑張りたいなと思うとすると、あんまり前のほうにならないほうがいいのかという気がするんです。できるだけお声がけをたくさん念入りにして、皆さんに来ていただきたいというふうな感じを念頭にするほうがいいんじゃないのかなと思いました。コメントです。

【加藤】 分かりました。ありがとうございます。

じゃあ、一応この3つの週で、調整さんで、今回少なくとも参加された方、あと、ぜひ参加すべきと思われる方に、山崎さんから送っていただくことでよろしいですか。

【高松】 高松ですけれども、よろしいでしょうか。

【加藤】 はい、お願いします。

【高松】 先ほどちょっと私のほうが発言させていただいた、聴衆をどういったところをターゲットにするのかというのは、例えば1月30日の週に開催するのであれば、年内にはもう決めて、ざっくりとこんなプログラムでみたいな辺りも固めておくようなイメージなのかなと思ったんですけれども、それで皆様の御認識は合っていますでしょうか。

【加藤】 そうだと思います。今の、決定ではないにしても、体制はなるべく広く一般の、IGF を御存じない方にも聞いていただけるようなセッションにできればいいなことだったと思いますので、そういう前提で、そんなに専門家しか分からない、聞かないというような会ではない、そういうことを目指してやるということで考えていただければいいと思います。

【高松】 分かりました。

【加藤】 あと、いかがでしょうか。御意見とか御質問とかあれば。

【本田】 ちょっとどこまでお手伝いできるか分かりませんが、今までイベントものには一通り参加させてきていただいたので、私のあれも一応、グループの中に入れておいていただければと思います。

【加藤】 はい。

【本田】 現地は行っていませんけれども。

【加藤】 そうですね。ぜひお願いしたいと思います。ここで名前を挙げていただいた方は、現地参加された方に調整さんを確認するというので、それ以外の方々もできるだけ調整できるように幅を持たせて、検討していただくということと。

あと、今、本田さんが言われたように、一応前のプログラム委員会は前々回で終了ということを確認しましたけれども、そこでやられた方とか、もう一度ボランティアのお手伝いをお願いするというだけでは、活発化チームの中で、そういう依頼はしてみたいと思います。

山崎さんお願いします。

【山崎】 ちょっと記憶が大分うろ覚えになってはいますが、たしか去年、昨年度、この IGF 報告会をやったときは、その前の事前会合とは違って、明確にプログラム委員会とかつくらなかったんで、結構ぐだぐだだった覚えがありますので、本田さんが先ほど参加表明していただきましたが、何かプログラム委員会とまでいかななくても、このチームのメンバーの方々で何人かボランティアをしていただかないと、ちょっと事務局だけでうまく回ると思えませんのでよろしくお願いします。

【加藤】 私が今、後で申し上げたことも、それをちょっと踏まえたもので、もう一度、プログラム委員会のメンバーの方、少なくとも中心に、お声がけて、その中で手を挙げていただく方を、これは義務ではなくて、手を挙げていただく方を確認するということがあってもいいんじゃないかと思います。

本田さん、もう一度お願いします。

【本田】 これは、ちょっとやり方の提案なんですけれども、いずれにしても準備期間はそれほどないのは明らかなので、何か都度、小グループというか、この準備グループの中で、メールで行って来いするよりは、もう決まった日に定例で何か決めちゃって、決めちゃってというかミーティングすることを決めておいて、そこへ出られた人が、出られたタイミングで決めていくという感じでやれば、時間は少なくとも、ちょっと今までのやり方だとメールで、中でいろいろもんだりかんだりというのがあったり、議論に要したりしたこともありますので、ある程度短期間で能率よく、そういう進め方もありかなと思いました。

【加藤】 分かりました。

じゃあ、山崎さん、そういう意味で、本田さんも今、手を挙げられましたが、私も微力ですけども、お手伝いグループに入れておいてください。それで、日程もだから、一応確認いただければと思います。あと、ほかの方も、手を挙げていただく方があれば、ぜひお願いしたいと思います。

ということで、報告会はそれでよろしいでしょうか。ぜひ次回までに、来年はイベントをやるか、や

るとしてどんなふうにするかという御意見をお伺いできればと思います。報告会の準備やっている中で、また少し意見が盛り上がってくるかもしれないですけども、そういうことでお願いしたいと思っています。

それでは、次に移らせていただきますが、アジェンダ、もうあとは todo の確認でしたでしたっけね。次回ですけども、候補として12月26日が、3週間後なんですけれども、年末のため1月9日にしたらどうかということですが、皆さん、これはいかがでしょうか。確かに会としては、それぐらいじゃないと、ちょっと皆さん、いろいろな御予定があるかもしれないので。

【本田】 9日は祝日ですか。よく分からない。成人の日が移ったんでしたっけ。どうなったんでしたっけ。

【山崎】 ああ、そうですか。それはまずいです。そうすると、1日ずらして10日の火曜日にしたほうがいいんですかね。

【加藤】 そうですね、9日は成人の日ですね。確かに。

それじゃあ、1月第1週は、確かにお休みとかという方が多いので、という趣旨ですよ、山崎さん、これ。

【山崎】 はい、そうです。

【加藤】 じゃあ、1月10日の火曜日ということでよろしいでしょうか。

【山崎】 年末も多分、お休みの方がいらっしゃると。

【加藤】 そうですよ。1月10日の火曜日5時から次回ということで、もし反対がなければ、ここで、そうさせていただきますと思います。

その間に、先ほどのタスクフォースの動きもあるので、必要なことを私からすぐ御報告しますし、それから、もうこれ、報告会の日程を決めるということになると、もうそのときまでにいろいろと動いていないといけないので、それはボランティアの方はぜひ、そこに参加していただいて進めていただくということにしたいと思います。

高松さん、お願いします。

【高松】 先ほどの報告会の話に戻るんですけども、1月の30日の週は、やはり広報にするのは難しいんじゃないのかなと改めて思ったので発言します。

【加藤】 それはちょっと早過ぎるという意味ですか。

【高松】 はい。例えばなんですけれども、まだどういったプログラムになるかも分からなくて、そういう事項の検討が必要というふうになった場合に、活発化チームの皆さんにお諮りしたいみたいな内容が出てくるような気がしています。どなたがプログラムとか検討されるか、まだ分からないんですけども。そうした場合には、メーリングリスト上でというふうにしても、どうしてもなかなか年末お忙しくて御意見が出ないというふうになったら、この次回の1月10日のタイミングが、議論を確認するにはよいタイミングになるかなと思っていて、それからアナウンスを例えば出すというふうにするのであれば、1月30日の週というのは、よりたくさんの人に参加していただくためにとか、プログラムの的にもよりいいものにするためにということを見ると難しく、2月6日の週か13日の週あたりで調整をしたほうが、よりよいイベントになるのかなと思いました。

【加藤】 はい。

【高松】 あともう一つ、スケジュールで、2月辺りにホストのプログラム提案の何か概要を検討するみたいなスケジュールが入っていて、もしタスクフォースのほうからも報告会の場で、こういったことをしたらどうだろうとか、何らかそういったお話とか枠組みみたいなものがあるようであれば、そういう意味でも、1月30日の週よりかは2月に入ってからの方がよいのかなというふうに想像しまして、ちょっと併せてコメントさせていただきます。

以上です。

【加藤】 すみません、前村さん、このタイムライン、これは国内 IGF 活発化チームのものと、ちょっと混在しているんですかね、これ。この部分。

どうぞ、山崎さん。

【山崎】 いや、前村のほうでこれをつくったわけじゃなくて、これはタスクフォース用を流用しちゃったので混乱してしまいますよね。すみません。タスクフォース用は抜いて、活発化チームだけにしたほうが分かりやすいですよ。

【加藤】 はい。そういうこと。全体のタイムラインということですね、両方の。分かりました。タスクフォースのほうでは、今、報告会というのはなかったと思うんです。

【前村】 ないです、それは。

【加藤】 だから、それでちょっと高松さんのコメントになっておりますが。

【前村】 そうですね。確かに11月末か12月にあったイベントの報告会を、そんなに、3月とかいったら、ちょっと遠い感じがするんで、1月がいいかなというのは素朴な感覚としてあるんですけども、そうはいっても今からそういうプログラムを調整して、登壇者と参加者とかというのは無理な感じがするんで、2月の中で、ちょっと先延ばしにして2月ぐらいでどうかというのは大賛成です。

【加藤】 じゃあ、一応、先ほどの調整さんは2月の6日の週と13日の週、2週で確認いただくということでしょうか。

実積先生、お願いします。

【前村】 いいんじゃないでしょうか。

【実積】 すみません、実積です。

提案なんですけれども、もし、この間、エチオピアの件を打ち合わせるのであれば、それはきちんとやっていただくということで、それとは別に一般向けというか、全然知らない人向けのビデオだけでもつくっていただくと、それで十分足りるのかなと思います。今、前村さんからお伺いしているとおり、1月末のほうをやりたいんですけども、それだと間に合わないという高松さんのお話もあった、それはまさにそのとおりでと思うんで、何だろう、報告会は、要はプロ向けで淡々と毎年やっていただくとして、それとは別に、IGF とは何かみたいな分かりやすいビデオがあったら、それだけでも、皆さんのフェイスブックに流すだけでも大分広まるような気がするんで、そういうように分けてはいいかがでしょうかということ。一緒にやろうと多分大変面倒くさくなると思うので、今までと違うことをやらなきゃいけないんで、ということは、前村さん、どうでしょうか。

【前村】 呼ばれる回数が多いので、ちょっと立ち続けますけれども。

イベントには来ていただいたほうがいいんじゃないかなと思います、一般というのか今まで IGF を知らない方々にも。その上で、もちろんビデオがあって、ビデオを見たら IGF が分かるという仕掛けはとってもいいんだと思うんですけども、と思いました。なので、つまりは一般の方に来ていただくということも入れた調整もいとわなないといったことだと思いますが。

【実積】 もしそうだとすれば、週末に開催しないと。

【前村】 そうのことね。なるほど。それは今回の日本 IGF2022でも話が出てきたことです。どうしましょうか、皆さん。

【加藤】 それは、じゃあ先ほどの調整さんは、土曜日も入れておきますか。その可能性を含めて。ちょっと今日、多分この日って決められないのと、週末だとまた出られないというのがあって、前日も、結局3日間とも平日になったんですけども。

【前村】 そうなんですよ。

【加藤】 ええ。この場でどの日がいいというのをちょっと決めにくい気はするんです。

それと、実積先生が言われたビデオというのは、確かにこの IGF のチュートリアルがビデオになるといいんですけども、それをつくると考えると、今回いい機会なので、IGF とは何かというのを前村さんが30分ぐらいしゃべって、あと何人か、それを言うてこうだ、ああだというのを1時間物なりのビデオにしちゃうというのはどうですか。

【前村】 私に聞かれると、それはいいと思います。

【本田】 すみません、いろいろ話が広がっていてあれなんです、ビデオはビデオで結構なんです、もちろん、いいアイデアなんです、この前やったときの経験からすると、もう出来上がっているビデオに字幕を打つのもなかなか、やろうやろうってアイデアがあってできなかったということがあるので、もちろんやってもいいし、やったほうがいいとは思いますが、まず、そういうものをやるには、やっぱり予算というか、してこないといけなくなるので、まず、現実論の話で言うと、私はももとの話に、報告会の話に戻しますが、なるべくタイムリーなほうがいいということ、ある程度粗くてもいいけれども、現地の様子を持って帰ってくれるのがいいということも言ったんです。だから日取りのところは、当然出られる方の、出られるというのは登壇される方の御都合があるので、別に1月の最後の週が嫌だと言うのであれば、それはそれで結構なんですけど、ただ、今言われたように、土曜日がいいのか、金曜日がいいのか、月曜日がいいのかとか、そういうところは、実際のグループのほうで細かく話をしていけばいいんじゃないかなと。今ここで、あんまり相談するほどでもないのかなという気はします。

【加藤】 ありがとうございます。

実積先生、今のビデオの件はどうでしょうか。このセッションの最初のなりに、30分か1時間か、IGF とは何かというような部分を設けて、場合によっては、それをビデオに別途撮るなり、もう1回、そのために収録していいですが、多分、今からビデオって、その部分をつくって、今後使うというのは結構難しいようにも思うんですけども。

【実積】 別にそのためだけに何かスタジオを借りて前村さんにしゃべっていただくということが、理想は理想なんで、そんな手間をかける必要は多分ないと思うんです。

【加藤】 はい。

【実積】 一般の人が来てもらいたいというのは前村さんと同じ、ここは共同だと思うんですけども、平日にやったら多分来ないんです。ほかの日程が入っているのをやめて、聞いたこともないインターネットガバナンスの会合に出るかという、誰もそのインセンティブが湧かないので、そうすると冒頭で、例えば一般向けにしゃべっていただく分だけを切り取って、そのままアーカイブで流すようなことしてもらえば十分だと思います。

【加藤】 分かりました。

【実積】 そういう意味で、その部分に関しては、恐らく準備が要らないというか、Call for paper を待つまでもないでしょうから、本番でも、そこはビデオを流すことを想定していただくとすれば、事前に撮っていただければ、僕らの配布というか、フェイスブックへ流すのが少しでも早くできるので、ということです。2月の頭にあって、それできちっと整理してとなると、下手すると3月になって入っちゃうのは、Call for paper とほぼ同じ時期になると、先ほど申し上げたとおり、Call for paper が来たけれども、何これっていう人ばかりになってしまいかねないので、ちょっとでも早いほうがいいかなと思った次第です。

以上です。

【加藤】 分かりました。

野村さん、お願いします。

【野村】 すみません、私は、ここの中では、とても新人なんですけれども、一般人というふうに言われてもいいのかなと思うんですが、図書館関係者なんですけれども、やっぱり図書館関係の人は、IGF とは何かといっても全然分からない。そういう意味では一般人向けの IGF についての解説は必要なのかなと思います。そのきっかけとして、やっぱり報告会というのを利用したほうがいいのではないかとということです。

ただ、ビデオもつくるのもいいんですけれども、例えば報告会自体を録画にしまって流すだけでも効果があるのではないかと思います。最初に概説をしていただくとか、そうすれば一部分を見てくださる方もいると思うので、やっぱりきっかけとなる、報告会というタイトルは必要なのかなと思っております。

よろしくお願いします。

【加藤】 ありがとうございます。本田さん、まだ同じ件ですか。

【本田】 いや、動画のところで、録画するのはもちろん結構だし、何かこう手短な、手短って5分、10分の説明があるのはいいと思うんですが、いろいろなアイデアがあっ一緒になっていると思うんですが、多分、実積さんが言われているようなフェイスブックでシェアとかというのは、ちょっとしたロングコマーシャル、60秒とか2分とか、それぐらいのものの中で IGF について基本的な概念を説明するとか、そういうものも、もしかしたらアイデアの中に含まれているかなと思ったので、そういう比較的短時間のものであれば、新たに動画をつくるということではできるのかなというところなんです。

ただ、単純にアーカイブを、じゃあ30分撮りました、1時間撮りましたって、全部それを見る人がいて、興味を持って見るかという、必ずしもそうではないので、手軽にシェアできるような小さなクリップというのは、確かにあったほうがいいかなと思います。それはちょっと報告会とはまた別の広報のほうのトピックだと思いますけれども。

【加藤】 今、野村さんが御指摘いただいたの、僕も大体そんなイメージで、最初に、例えば30分なり1時間、1時間はちょっと長い気がしますが、IGF というのはこういうものですよという部分があって、それであと、エチオピアの御出席の方を中心に報告会をやるということにして、全体をビデオに撮って、御存じない方は最初の部分だけ、あとビデオを見ていただけるようにつくってはどうかと思ったんですけども、実積先生は、そのビデオの部分だけでもなるべく早いほうがいいという、報告会を待つ前にあると、もっといろいろな人を呼べることも含めて早いほうがいいという御指摘だと思いますが、この辺、前村さん、実務的にどうですか。事前にそういう録画して、少しパワーポイントでの解説や何かも入れて、IGF のビデオをつくるということはできますか。

【前村】 すみません。

【加藤】 前村さんに必ず言ってあれですけども。

【前村】 どう考えてもできないと思います。

【加藤】 できないですか。分かりました。

【前村】 ちょっと検討がつかない。

【本田】 前村さん、ちなみに京都の新しい現地での広報ブースというのは、動画とかは、それはあれなんですか、どっかで公開されるんですか。

【前村】 実は、あれがどこにあるのかも知らないんですが、コンベンションビューローが制作したものとしたいんですけども。

【本田】 そうなんですか。

【前村】 はい。とてもよく京都という町を宣伝するビデオ、2本ぐらいのビデオなんですけど、というだけです。

【本田】 そうなんですね。京都を宣伝。

【前村】 ユーチューブ上にあるというふうに飯田さんがおっしゃった。そうかもしれない。

【本田】 IGF を宣伝するというほうじゃなくて京都の.....

【前村】 いやいや、もう全然、だって（その時は）公式発表されてないんですから、京都って。

【本田】 なるほど。

【前村】 イメージビデオで京都だよって言うだけだったんです、あのときブースで。

【本田】 前村さんたちのほうが受託されている業務の中で、ある程度、広報に絡むようなところで広げていただいて、多少、流用というのかよく分かりませんが、同じ目的のために使っていただけるリソースというのはないものではないでしょうか。

【前村】 京都の観光案内をしなくても、日本人にはいいんじゃないですか。IGF に来てもらう。

【本田】 違う違う、京都じゃなくて、IGF 広報のところですよ。

【前村】 なので、それに関しては何も制作したビデオがないので、ちょっと、そうですね、例えばですよ、例えば IGF2022 に来ていただいた皆さんと一緒に何かを撮って、それを編集して、IGF を見たこともないような方々に見ていただくようなビデオにこしらえるということ自体がちょっと重いです、

タスクとしては。なので、即ち、それは多分できないと思いますという感じになります、ということを行います。

【加藤】 だけど、前村さん、IGF ってこういうので大体、4日プラス1日あって、こういう人が集まって、みんな、過去こんなところで行われていて、こんなことが議論になっているというので、パワーポイントを例えば10ページぐらいつくって、みんながそれに対してこうやって参加をして、マルチステークホルダーでこういうふうに行っていますというようなパワポをベースに、それを解説するみたいなビデオってつくれないですかね。

【前村】 そういうふうに、今、加藤さんがおっしゃったことをやろうとするんだっただけならできるような気がしてくるんです。何かそれをつくると、例えば、実積さんから、いや、そんなんじゃないんだよって言われそうな気がするとか、そういうことなんですけれども。

【加藤】 いや、だけど、多分、ベーシックな情報という意味じゃ、そういうことですよ。実積先生、それで大丈夫ですかね。まずは。

【前村】 確かに加藤さんがおっしゃるように、ベーシックな情報というのも重要ですよ。実積さん、どうですか。

【実積】 いや、今年の夏前に、インターネットガバナンス、何というのを数人にヒアリングして、もう投げ出しちゃったんです、実は。みんなに言うと、あまりにも違うので。なので、どういう形であれ、誰がしゃべっても私が考えるインターネットガバナンスにしかならないだろうなと思っているので、でも一応メインでやってきている人が、こんなもんなんですよという話をしてあげないことには、とにかく話が進まないし。

【加藤】 そうですね。

【実積】 ということなので、そこは何でもいいと、取っかかりとして。それは違うんだと、俺のインターネットとガバナンスは違うんだという人が出てきたら出てきたで、それはしめたもので、その人を取り込めばいいだけの話だし、とにかくスタートが何もなし、インターネットガバナンスと言ったときに、インターネットガバナンスフォーラムの説明はいっぱいあるんです。会議としていこうなっている。インターネットガバナンス、何というのが分からないうちに、インターネットガバナンスを扱う会議ができましたというところが、どの話も伝わっているので、みんな取っかかりが分からないんです。

【加藤】 だから少なくとも過去こういうふうに来て、それぞれのトピックがこんなでというようなことをお伝えするだけでも、こんな広いことをみんなが、いろいろな人がやっているんだなという、そういう客観的事実はつくれますよね。

【実積】 なので、そうしないと Call for paper の枠が分からなくなっちゃう。

【加藤】 そうですね。枠はすごく広いというのが事実なので、その辺を伝えればいいんじゃないでしょうか。

【前村】 前村ですけれども、であれば、ちょっとそういうものを制作しましょうか、活発化チームとしてでいいと思うんですが。

【加藤】 ちょっと頑張ってみましょうか。

【前村】 はい。頑張ってみて、それって早晩、結局、必要ですよ。

【加藤】 というか、あったほうが間違いなくいいです。

【前村】 タスクフォースにしても、活発化チームにしても、何を求めているかというところと IGF 2023にみんな来てということだと思えば、そういうのを制作して、つくって、準備していくというのは重要なこと。

【加藤】 パワポが1つあれば。それで、録画は前村さんにやっていただくとしても、そのパワポをみんなが持っていれば、それぞれの人がそれをベースに、皆さん、これで宣伝していただけますよ。

【前村】 できますよ。

【加藤】 ええ。やってみましょうかね、それ。

【前村】 やってみましょうかね。取りあえずパワポをつくることからですね。

【加藤】 はい。パワポがあれば、大体誰かビデオで録画すればしゃべれると思います。

【前村】 はい。何か、もう1人の私が安請け合いをするなど言っているんですけども、頑張ります。

取りあえずイニシャルドラフトを出しますので、皆さん、それをもんで、もんだりたたいたりしてください。よろしくお願いします。

【加藤】 ぜひ、それでよろしく、前村さん、よろしくお願いします。

【前村】 よろしくをお願いします。

【加藤】 みんな前村さんに投げ出すんじゃなくて、それぞれ、これを入れろとかというのがあったら、ぜひ早いうちに言っていただければと思います。

【前村】 皆さんも汗かいてくれないと、多分2023に我々が思い描く絵は出てこないと思うんです。

【加藤】 そうですね。ぜひ。そうしましょう。

【前村】 はい。

【加藤】 ありがとうございます。

報告会ということで話が盛り上がってよかったと思います。

ということで、今回は1月10日でしたっけ、ということですが、何か言い残したこととかございますか。先ほど飯田様からYouTube上にありますというコメントがありました。この飯田さんは加藤さんなんですかね。

【加藤（総務省）】 すみません、毎回ややこしくて。

【加藤】 そういうことですね。分かりました。

それでは、あと何か、これは言い忘れたとか、言い残したとかということとはございますでしょうか。

特にないですか。もう時間オーバーなので、大変不行き届きで申し訳ないですが、もし、これでなければ、今回は、正式に集まるのは来年ということで、ぜひ皆様、よいお年をお迎えください。

それでは、今日はこれでお開きにさせていただきます。長い間どうもありがとうございました。

---了---